

1.2 災害発生時に必要となる機能

災害発生時に必要となる機能を以下に示す。

表 1.1 計画対象となる機能

	必要となる機能	機能の内容
1	応急救助機関の活動拠点	緊急消防援助隊、都道府県警広域緊急援助隊、自衛隊災害派遣部隊が、広域の救助・救急・消火活動を行なうため、車両や資機材等を留め置くとともに、活動要員が滞在するための拠点
2	避難所	被災により、自らの居住の場所を確保することが困難な住民を一時的に滞在させるための施設
3	医療救護所	耐震性が確保されている建物(病院および診療所を含む)や学校校舎の一部または運動場等に設置する仮設建物等に設置される、初期救急医療に相当する応急処置等を行う機能
4	市町村物資集積所	救援物資の受け入れ・配分・仕分けを行い、各避難所等に向けて発送する作業を行うための施設
5	遺体検案・安置所	検案所：警察、医師、歯科医師により検視、検案、身元確認のための試料採取を行う場所 安置所：検案の終了した遺体を安置する場所
6	仮埋葬地	衛生上、火葬体制が整うまでの間、遺体を仮に土葬する場所
7	応急仮設住宅建設用地	応急仮設住宅を建設するための用地
8	災害廃棄物仮置場	発生したがれきや廃棄物を一時的に集積しておく場所
9	災害ボランティアセンター	被災地での防災ボランティア活動を円滑に行うための拠点
10	ライフライン機関のベースキャンプ及び資機材置場	ライフライン復旧活動のため、各ライフライン機関の応援部隊が集合し、復旧資機材を集積しておく場所

出典：『南海トラフ地震応急期機能配置計画 策定手順書,高知県南海トラフ地震対策課,平成 27 年 5 月,P.2』に加筆

1.3 本町における機能配置計画検討結果

前項にて整理した災害発生時に必要となる各機能について、本町における用地・施設への配置検討を行った結果を表 1.2に示す。

表 1.2 越知町における応急期施設配置計画

機能		想定数量		必要面積(m ²)		候補施設・土地		備考
		L1	L2	L1	L2	施設名称	面積(m ²)	
応急救助機関の活動拠点		-		1,500		町民総合運動場 グラウンド	16,600	第4フェーズまでの利用。以降は応急仮設住宅建設地として利用する。
避難所	1日後	210 (人)	800 (人)	630	2,400	越知小学校体育館(912m ²) 越知中学校体育館(900m ²) 町民会館(500m ²) 野老山公民館(1,381m ²) 桐見川公民館(体育館)(395m ²) 横島西部公民館(校舎)(310m ²) 明治西部公民館(体育館)(485m ²) 明治東部公民館(1,133m ²)	6,016	左記の施設うち、野老山公民館、横島西部公民館(校舎)、明治東部公民館については、現地状況を確認のうえ、土砂災害リスクを回避可能であると判断し、適用することとした。 桐見川公民館(体育館)については土砂災害リスク箇所と重複するものの、地域性を考慮し適用することとした。
	1週間後	250 (人)	920 (人)	750	2,760			
	2週間後	160 (人)	810 (人)	480	2,430			
	1ヶ月後	110 (人)	640 (人)	330	1,920			
医療救護所		20 (人)	390 (人)	30	585	保健福祉センター	623	指定の施設
市町村物資集積所		-	-	109	155	多目的運動広場(屋内)(1,677m ²) 備蓄倉庫(288m ²)	1,965	
遺体検案・安置所		4 (人)	40 (人)	20	198	町民総合運動場 武道館	405	
仮埋葬地		4 (人)	40 (人)	26	255	無縁墓地+軍人墓地	260	
応急仮設住宅建設用地		0 (戸)	154 (戸)	0	15,400	町民総合運動場 グラウンド	16,600	第4フェーズ終了後に利用する。
災害廃棄物仮置場	可燃物	5,000 (t)	15,000 (t)	2,381	7,143	越知中学校今成グラウンド	21,381	
	不燃物	17,000 (t)	50,000 (t)	3,084	9,070			
	合計	22,000 (t)	65,000 (t)	5,465	16,213			
災害ボランティアセンター		-	-	-	-	町民総合運動場 体育館	1,849	その他の配置施設: 指定の施設
ライフライン機関の資機材保管場所		-	-	-	-	越知中学校今成グラウンド	21,381	その他の配置施設: 指定の施設

※L1: 発生頻度の高い一定以上の地震および津波

L2: 最大クラスの地震および津波

フェーズ: 本計画書 P.11 「7. 機能の配置期間」 参照